

Stay Home 5 : GoTo 観光、飲食キャンペーンに想う！

團伊玖磨流で考察するとコロナ禍・第 3 波は予測通り。歓楽産業の過大繁栄が結果的に観光業、飲食業の苦境を招いたものと思う。その上、博打産業まで政財界を揚げて招くのは更に耐コロナ、耐防災力を弱める愚の骨頂で、後世に禍根を残す！

コロナと経済対策の両立は唯一「人の心身を元の安全・安心状態に戻す」事であろう。「人の気持ちを助成金で無理に変えよう」と言う考え違いでは解決しない。PCR 検査等に助成金を出して陰性証明書保持者のみが GoTo に行けるシステムにすべきと考える。陽性者含むキャンペーン助成金はコロナ拡大キャンペーンに等しい。感染者が多数判明すると病院を始めパニックになると言うのなら、いずれ感染者の蔓延事実は変えられないので、自宅 OR 各種施設待機システムと方策を全力で検討・対策すべき。及び新薬を待つしかない。

以下、新薬の代わりに「明けてもパイプのけむり」から“紫陽花”に関して、最も印象的だった紫陽花は終戦 2 日目の夕方に見た額紫陽花。東京も未だ混乱が起きておらず市電、東海道線～大磯の緑の松原が眼に染み～箱根登山鉄道も動いていた。大平台=強羅間の切通しに見た額紫陽花のブルーはこの世のものと思えぬ程幽玄な美しさだった。戦争は過去のものとなり、この花を境に僕のこれからは始まるのだ！と。43 年後の秋谷の自宅の紫陽花を観ながらの感慨を吐露。

“最後の机”、その後日談“鉛筆”に関して、戦後、鎌倉で創作生活を始めた頃は机が無く奥様自作のミカン箱机を 7 年、その後、葉山に越して奥様デザインの立派な机を 30 年間使用。もっと大きなものが欲しいと奥様を尊重し相談したら‘書き物机は貴方の生命線で、収入も机の上から生まれる訳ですから、今度は心ゆく迄良い物をお探しになって、高かろうが気に入った物をお買い下さい、となった。親友に相談結果、日本に無い大きな所望の一件に遭遇。前面 1.6m、奥行 1 m、机上革張り、総革張りの回転椅子を大型設備投資と考え購入。以来その重厚壮大な机と椅子に陣取って机の母国スペイン風に馴化しようとするが～机の上を広げれば広いで 1 週間もすると我楽多が増えて元の木阿弥。押し退けて作った僅かの隙間で仕事の仕儀となった。我楽多と言え、鉛筆だけでも 2 ダースと当人にとっては必要なもの、と。

因みに小生の机の上も全く同様に、何時も家内に机の上位は片付けて下さい、と言われても出来ないところは同じで変な所で共感を憶える。口直しに小宅の野草園から花 2 種。 以上



20,10 勝手に庭の一角を占領したホトトギス群落
この一角の主役は鈴蘭→秋明菊→杜鵑草と変わる



20,10 市の花・笹リンドウ
種が零れて今年は 30 輪も咲いた！